

## 第3学年 音楽科学習指導案

東京都公立小学校

### 1 題材名 「五音音階で旋律をつくろう」

### 2 題材のねらい

- (1) 五音音階を構成する音の響きやそれらの組合せの特徴について気付き、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける。
- (2) 音色や旋律、音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得る。
- (3) 五音音階の響きや即興的に旋律をつくる学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組む。

### 3 題材について

#### (1) 児童の実態について

3年生より担当している。明るく活発に学習し積極的に表現する児童が多い。低学年では音遊びの経験がなく、3年生になってからリズム遊びの活動を常時活動として取り入れながら学習を進めている。

本題材に関連する音楽づくりについては、1学期に「歌って音の高さをかんとろう」の題材の中の『海風きって』（高木あきこ作詞／石桁冬樹作曲）で旋律づくりを行った。いろいろな音のつなげ方を試し、いくつかの旋律をつくって、その中から気に入った旋律を選ぶ中で「上行している旋律は元気が出る感じがするから好き」「下行していくと落ち着くから好き」「音が飛ぶと盛り上がっていいと思った」等、音の動きと気に入った理由を関わらせて考えることができた。また、「リコーダーのひびきを感じ取ろう」の題材の中の『雨上がり』（佐井孝彰作曲）の学習では、ラドレの3音で構成されていることに気付き、「不思議な響きがする」と、使われている音の組合せの特徴に興味をもっている児童もいる。本題材では、使用する音階をハ長調の第4音ファと第7音シを抜いた「五音音階」に限定し、五音音階の響きを感じ取り、友達の旋律のよさを感じ取りながら即興的に旋律をつくる楽しさを味わえるようにしていきたい。

#### (2) 題材について

本題材で扱う五音音階はハ長調の第4音ファと第7音シを除いた五音（ヨナ抜き）である。素朴で耳なじみがよく、どこか懐かしさを感じる響きをもつ。また、導音や下行導音に左右されない五音であるため、即興的に旋律をつくりやすい音階である。この音階は、「お正月」（東くめ作詞／滝廉太郎作曲）「こいのぼり」（近藤宮子作詞／絵本歌唱）「赤とんぼ」（三木露風作詞／山田耕筰作曲）等、古くから伝わる子供の歌や、インターフォン、入店時のチャイム音等、子供たちの身近にある音楽に使われている。ドレミソラで構成される五音音階の響きを楽しみながら、教師が考えた旋律（ドレミソララソ●）  
  
に、同じリズムでこたえる旋律を即興で演奏する。ミニキーボードで音色を変えられる機能も使い、授業の終末には全員で Rond 形式で演奏し、即興的に旋律をつくる楽

しさを共有できるようにした。

### (3) 学習指導要領との関連

本題材は、小学校学習指導要領の以下の内容に基づくものである。

#### 【A 表現：(3) 音楽づくり】

ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。

(ア) 即興的な表現を通して、音楽づくりの発想を得ること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。

(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴

ウ 発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能

本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素

ア「音色」「旋律」「音階」      イ「呼びかけとこたえ」

## 4 教材について

<音楽づくり>

### ○五音音階（ハ長調のヨナ抜き ド レ ミ ソ ラ）による旋律づくり

\* 4分の4拍子2小節      基本のリズム 

\* 教師の （ドレミソ | ララソ●）にこたえる旋律をつくる。一人一人が即興的に旋律をつくり全員で Rond 形式で演奏する。

## 5 題材の評価規準

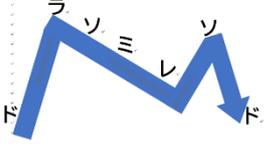
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>① 五音音階を構成する音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>① 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p><b>思</b>① 音色や旋律、音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p><b>態</b>① 五音音階を構成する音で旋律をつくる学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの活動に取り組もうとしている。</p>

6 題材の主な指導計画（全2時間）

時	○主な学習内容 ・学習活動	◇教師の働き掛け◆評価規準
1	<p>○キーボードの基本的な操作を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の曲を弾きながら、キーボードの様々な音色を試してみる。弦楽器、管楽器、打楽器の中から、旋律をつくるために使える音色を選ぶ。</li> </ul> <p>○五音音階がもつ響きを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に学習した「海風きって」のイの旋律（鍵盤ハーモニカの旋律）と、1年生で学習した「こいのぼり」や「お正月」を歌詞や階名で歌う。</li> <li>今まで学習した曲と五音音階でつくられている曲を比べたり、ハ長調の長音階とそのヨナ抜きである五音音階を比べたりして聴き、音階のもつ響きを感じ取る。</li> </ul> <p>○五音音階を構成している音の響きやそれらの組合せの特徴について、そのよさや面白さと関わらせて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミニキーボードでド、レ、ミ、ソ、ラの音階を弾いたり、「こいのぼり」や「お正月」の階名を演奏したりする。</li> <li>キーボードで演奏したり、階名唱をしたりしながら、既習事項の、終止音を「ド」にした場合と、「ド」以外の場合で、旋律の終わる感じが変わることに気付く。</li> </ul> <p>○のリズムで（ドレミソ   ララソ●）を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が児童の演奏にこたえる形で即興的に演奏した旋律を聴く。</li> <li>同じリズムで即興的に旋律をつくってみる。</li> </ul>	<p>◇1学期に学習した「ドレミで歌おう」（小原光一／作曲者不明）や「海風きって」の旋律をキーボードで演奏し、旋律づくりを思い出すようにする。</p> <p>◇様々な音色を試す中で、高さの変わらない打楽器は旋律がつくれなため、弦楽器や管楽器の音から6種類程度の音を選び、児童はその中から音色を選べるようにしておく。</p> <p>◇既習曲を歌詞や階名で歌い、五音音階がもつ響きを感じ取るようにする。「こいのぼり」や「お正月」は、ハ長調のファの音とシの音の音が使われていないことに気付くように促す。</p> <p>◇ハ長調の音階と五音音階を聴き比べ、音階のもつ響きを感じ取るようにする。</p> <p>◇音階シートを付けたミニキーボードで様々な音色を楽しみながら、低音から高音に向けてド、レ、ミ、ソ、ラを演奏するようにする。長音階の中で使われていない音に注目させながら、音階のもつ響きが「こいのぼり」「お正月」と似ていることに気付くように促す。</p> <p>◇終止音が「ド」だと終わる感じ、「ド」以外の音だと続く感じがすることを感知取るよう促し、旋律づくりに生かす。</p> <p>◇児童がのリズムで（ドレミソ   ララソ●）で呼びかけるよう演奏し、その旋律に教師が即興的にこたえる。呼びかけにこたえる活動を繰り返し行い、五音音階で旋律をつくよさや面白さに気付くようにする。</p> <p>◇音の組合せを試しながらつくるように助言する。</p>

		<p>◆五音音階を構成する音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなど関わらせて気付いている。</p> <p>【知①】(行動観察、発言内容)</p>
<p>2 (本時)</p>	<p>○五音音階の音の組合せ方を工夫し、即興的に旋律をつくることを通して、音楽づくりの発想を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の演奏する、こたえる旋律を聴きながら、隣り合う音への上行、下行、音の跳躍等、音の組合せによって、旋律の音の動きが変わり、音楽の感じが変わることに気付く。</li> <li>・旋律の例を参考にキーボードで音を出しながら、様々な音の組合せで即興的に旋律をつくる。</li> <li>・数名の児童の旋律を聴き合い、そのよさや面白さを共有し、自分の旋律にも取り入れるようにする。</li> <li>・旋律をいくつもつくった児童は、リズムを変更して旋律をつくってよいことを伝える。</li> </ul> <p>○一人でこたえる旋律を即興的につくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の組合せを試しながら、こたえる旋律をつくる。ある程度の人数が旋律をつくったら、友達と聴き合ったり、教師に聴いてもらったりする。</li> </ul>	<p>◇前時同様に、</p>



<p>発展</p>	<p>・旋律の例を参考にキーボードで音を出しながら、様々な音の組合せで即興的に旋律をつくる。</p> <p>○こたえる旋律を一人でつくる。</p> <p>・音の組合せを試しながら、こたえる旋律をつくる。友達と聴き合ったり、教師に聴かせたりする。</p> <p>・旋律をいくつもつくれるようになった児童は、リズムを変更して旋律をつくってよいことを伝える。</p> <p>○全員で旋律を発表する。</p> <p>・クラスを2つに分け、グループ1は全員で <math>\frac{4}{4}</math> ♩ ♩ ♩ ♩   ♩ ♩ ♩ ♩ (ドレミソ   ララソ●) を演奏する。グループ2はドレミソ   ララソ●の旋律に一人でこたえる。グループ2のメンバーが全員発表するまでロンド形式でつなげて表現する。</p>	<p>&lt;近くの音で行ったり来たり・呼びかける旋律の終わりの音から始まるリレー&gt;</p>  <p>&lt;離れた音に跳ぶ&gt;</p>  <p>◇児童が即興につくった旋律を取り上げ、どのように音を組合せ、旋律をつくるかについて発想が広がるようにし、それぞれの発想を共有する。</p> <p>◆ 旋律や音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得ている。</p> <p>【思①】(行動観察、発言内容)</p> <p>◇教師が用意した和音伴奏による音源を流しておき、伴奏に合わせて旋律をつくるようにする。教師は児童の旋律を聴き、児童のつくった旋律の評価をする。</p> <p>◆発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>【技①】(行動観察)</p> <p>◇教師が用意した和音伴奏による音源を流して、伴奏に合わせて表現するようにする。どちらのグループも、ドレミソ   ララソ●を演奏するとき、キーボードの音はピアノで統一する。一人一人がつくった旋律は、自分で選んだ音色で演奏するように助言する。</p>
<p>まとめ</p>		

	<p>◇音楽の終わりが決まっていなため、ハ長調のI度の和音(ド・ミ・ソ・ド)の中から好きな音を選び、あらかじめ決めたリズムで音楽を終止させるようにする。</p> <p>◆五音音階を構成する音で旋律をつくる学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの活動に取り組もうとしている。</p> <p>【態】(行動観察、発言内容)</p> <p>※第1時から継続。第3時で記録に残す評価とする。</p>
--	---

(3) 第1時で児童が選んだ音色

【CASIO32 ミニ鍵盤電子キーボード SA-46】

- |               |            |           |         |
|---------------|------------|-----------|---------|
| 1 2 トローバーオルガン | 2 4 ギター    | 3 5 バイオリン | 3 9 ハープ |
| 4 6 トランペット    | 4 7 トロンボーン | 6 4 リコーダー |         |

(4) 第2時の板書記録



(5) 授業を振り返って

- ・音楽づくりの経験が少ない3年生だったが、一人一人がたくさんのこたえる旋律をつくることができた。音階シートを使用することで、選択する音に戸惑うことがなくなり、音を選択したり組み合わせたりする活動に集中できたからだと考えられる。また、リズムを変えて演奏する児童が増えたのも、

音階シートがあることで、様々なリズムを試し、リズムを変えることのみに集中することができるので、音階シートの効果はとても高かった。

(4) で選択した音は、児童にとって見たことがあったり学習したりしたことがある音色を選んだ。弦楽器を選んだ児童の中で、音と音が繋がるように鍵盤をレガート奏法で演奏していた。なぜその弾き方をしているのか聞いてみると「ハープの音は響きがあって繋がるように演奏したほうが楽器の音に合っているから」と、音色から考えられる演奏の仕方を実践している児童もいた。また、キーボードの音色をいろいろ試す中で、「6 8 スクエアリード という音色で旋律づくりをすると、テレビゲームに出てくる旋律がつくれそう。」「1 3 パーカッシブオルガンや 4 5 オーケストラヒットは、ひとつの鍵盤で高い音と低い音が重なっていて面白いからこの音で旋律をつくりたい。」と音色から感じ取られる音のイメージから旋律づくりの発想を広げている児童もいた。音色を楽しみ、考えながら旋律をつくることのできるのも、ミニキーボードだからできる学習活動ではないかと感じた。